

あさかわせんじょうちいせきぐん
浅川扇状地遺跡群現地公開資料

(一財) 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. 調査の概要

長野県埋蔵文化財センターでは、新県立大学施設整備事業に伴い、平成27年4月から浅川扇状地遺跡群の発掘調査を行なっています。附属幼稚園の園舎北側の発掘では、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代前期を中心とする溝跡や土坑などがみつかりました。しかし短大グラウンドの東側では、人々の生活の様子を示す遺構や遺物などはみつかりませんでした。現在、発掘を進めている短大グラウンドの西側では、弥生時代後期の竪穴住居跡や土坑が複数みつかっており、ここが弥生時代後期の集落跡であることが分かってきました。

所在地：長野市三輪8丁目 長野県短期大学構内(文中は短大と略す)

調査面積：6,000 m²

発掘作業の期間：平成27年4月1日～11月30日

6月までの成果：

検出遺構：竪穴住居跡3軒(弥生時代後期)

溝跡3条(古墳時代前期～古代)、土坑約70基(弥生時代～古代)

出土遺物：縄文時代の土器、弥生時代の土器・石器、古墳時代の土師器

古代の土師器・須恵器など

2. 遺跡の位置と地形

浅川扇状地は、飯縄山から流れる浅川の運んだ土砂が堆積してできた、南東方向へなだらかに傾斜した土地です。この扇状地は日当たりがよく、水はけが良い土地なので、原始から人々の生活の場として利用されており、現在は長野市の中心的な市街地のひとつになっています。

この場所には、非常に多くの遺跡がみつかっており、それら全体をまとめて「浅川扇状地遺跡群」と呼んでいます。

その中でも短大周辺には、短大の北側300mに「ほんむらひがしおき本村東沖遺跡」、東側300mに「しもうきびー下宇木B遺跡」、南側300mに「三輪遺跡」などがあり、発掘調査が行われています。今回、発掘を行った短大の場所は「ほんむらみなみおき本村南沖」の字名があり、「本村南沖遺跡」と呼ぼうと考えています。



長野県短期大学上空から飯縄山方向を望む

3. わかってきたこと

短大周辺にある遺跡の発掘から、この付近には弥生時代後期後半(箱清水式土器期)、古墳時代前期～中期、平安時代前期を中心とする集落があったことが分かっていました。ところが今回の発掘では、これまで発見の少ない弥生時代後期前半(吉田式土器期)の集落が存在することが分かりました。また6月までの成果の限り、古墳時代は中期の溝跡などが存在するものの竪穴住居跡はなく、古代においては、集落の痕跡が認められない状況にあります。まだまだ調査は続きます。古墳時代や平安時代の住居跡などが本当にないのか、注意深く、発掘していきたいと考えています。

現地公開

弥生時代後期の竪穴住居跡

1号住居跡



床面からほぼ完全な形で出土した鉢

2号住居跡



床面近くから出土した吉田式土器の壺

掘る
しん

遺構配置図



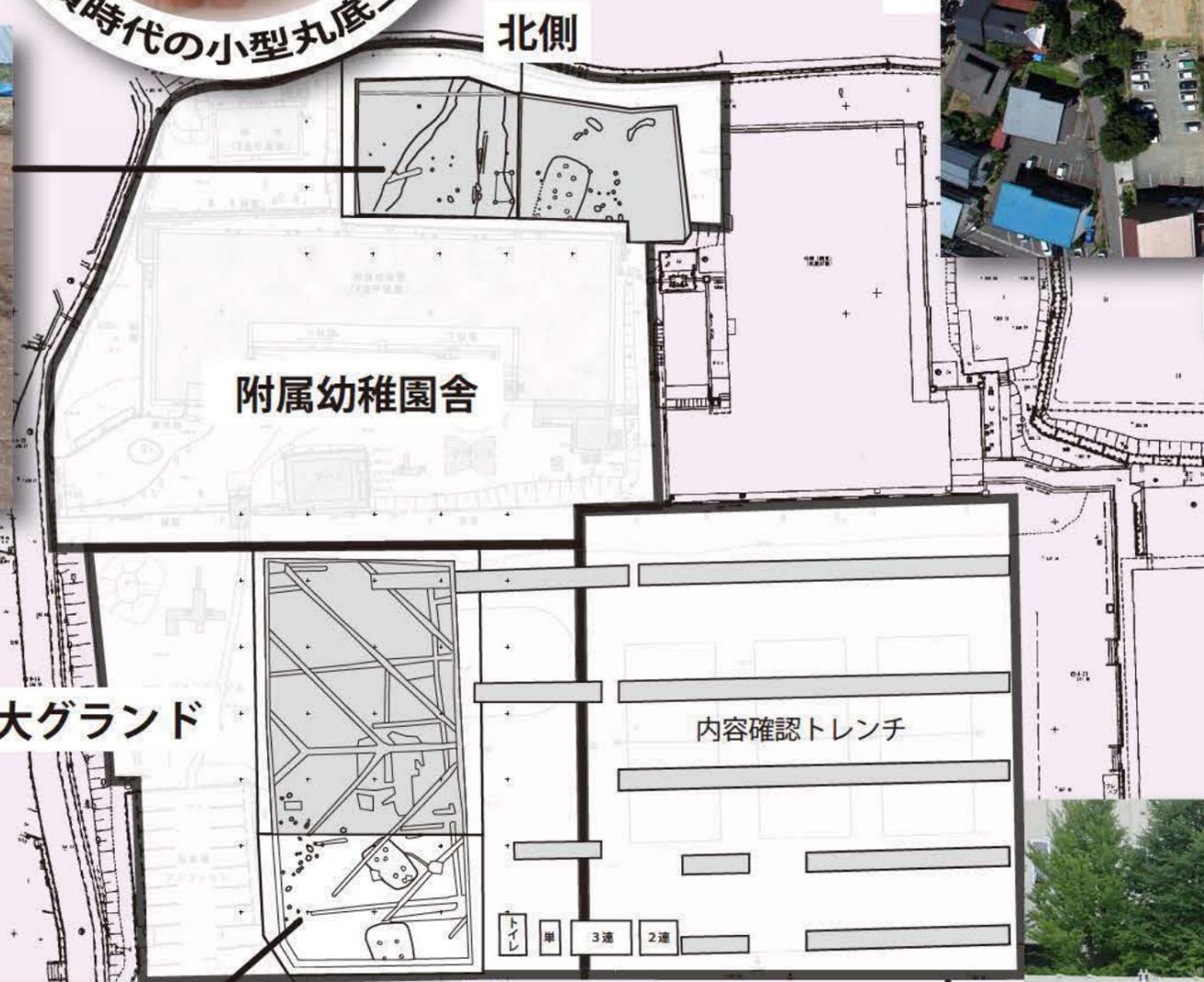
古墳時代の小型丸底土器



面 図 S=



幼稚園舎北側の調査



真上からヘリコプターで撮影



グラウンド下を掘る



何か出てきたよ〜



グラウンド西側の調査



県短生の遺跡見学

